

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名		ヒューマンライツメッセージなると開催事業		担当部署	教育委員会 生涯学習人権課		
総合計画体系				根拠法令計画など	人権教育および人権啓発の推進に関する法律		
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で 生きがい感じる まちづくり		事業期間	開始	平成	18年度
政策(中項目)	1	ひとにやさしく健康で安らげるまち なると				終期	未定
(小項目)		人権					
施策	1	人権の尊重					
基本事業	1	人権行政の推進					

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何を)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	小・中・高・大学生による人権作文発表と人権問題講演会をととして、一人ひとりが人権に関する正しい理解と認識を深め、人権尊重のまちづくりを推進する。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	市民から好評を得ている事業の一つであり、アンケート調査による一般市民の意見や教育関係者の意見を参考に、より一層充実した取り組みとして開催する。今回は、人権文化祭および全国人権・同和教育研究大会で展示したパネルの展示を同室でし、視覚からも人権について訴えていく。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		参加人数	130	130	130	130	130	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	第1部で小・中・高・大学生が日頃の人権学習により培った感性を通し、学校や家庭など様々な場面で思ったことを素直な言葉で発表した。 第2部では「育てたように子は育つー普段着の人権感覚、そして愛のシャワーをー」と題して「あいぼーと徳島」人権問題講師 渡邊 貞代さんを迎え、人権問題に関する講演会を実施する。 また、会場に人権文化祭および全国人権・同和教育研究大会で展示したパネルを展示し、視					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標 <small>実施した事業の活動量を示す指標</small>	1 アンケートに回答数	76	76	110	110	110	枚
	2 アンケート調査に参加いただき、内容について理解できた・ほぼ理解できたと答えた構成比	93.4	86	100	100	100	%
成果指標 <small>対象にどのような効果があったか示す指標</small>	参加人数	148	120	—	—	—	人
	目標達成率(実績/目標)		92.3	—	—	—	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり	事業全体の進捗状況			ほぼ計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成26年度	当初予算額	0	0	0	0	210	210
		全体予算額	0	0	0	0	210	210
		決算額	0	61	0	0	29	90
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)		総人件費		総事業費	
0.1		0.0		688		778		

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	164	90	130	164	164
	うち一般財源	164	29	130	28	28
	人件費	1,303	688	1,376	1,376	1,376
	総事業費	1,467	778	1,506	1,540	1,540

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった	市民から好評を得ている事業であり、今後も市民、教育関係者の意見を参考に、より一層取り組む。
	効率性	A:効率的だった	学生による人権作文発表や、講師を招いて人権問題講演会を開催している。
②成果に対する評価	指標名	参加人数	
	目標	130	人
	実績	120	人
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		A	若い世代の人権意識や感覚を広く参加者に伝える機会で、人権啓発活動の実践に有意義なものである。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	市内の児童生徒が学校や家庭など様々な場面で感じたことを率直な言葉で発表する場となっている。課題として、平日開催であるが子ども達の思いを聞くことができる機会であることから、保護者や他の児童生徒の参加を促す周知広報を強化していく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	アンケート調査による一般市民の意見や教育関係者の意見を参考に、より一層充実した取り組みとして開催する。昨年と同様に、人権文化祭で展示したパネルの展示を同室でし、視覚からも人権について訴えていく。			
	H28年度	以降継続実施			